

REPORT

## 新型コロナウイルスワクチン接種

新型コロナウイルス感染症の拡大から一年半、世の中が「新しい生活様式」の構築を模索する生活が続くなか、世界がワクチン接種に向け大きく動いています。我が国でもリスクの高い高齢者から徐々に接種が始まり、いよいよ国民全体の本格実施にむけ準備が進められています。

当法人の接種は「伸寿苑」が北九州市の高齢者施設モデルとして4月19日からスタート、5月10日から「小倉リハビリテーション病院」での接種が行われました。医師・看護師中心に感染対策に配慮し進めてきました。2回目接種時に若干の発熱・倦怠感等の副反応がりましたが、大きな影響もなく完了することが出来ました。

例年ならば今頃、法人内では夏祭りの準備の時期です。様々なイベントが中止となり不安続きの毎日ですが、以前のような日常をいち早く取り戻せるよう、今はただ気を緩めずこの事態を乗り越えていきたいと思ひます。



### ◆当院へのアクセス

#### JRの場合

「南小倉駅」(日豊本線・日田彦山線)より片野方面へ徒歩10分

#### バスの場合

「木町二丁目」バス停(ファミリーユサ前)より小倉南区方面へ徒歩10分

#### 都市高速の場合

「紫川IC」清水方面車線出口よりすぐ右側

カーナビでお越しの際は、

NAVI 北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1と入力してください。



## KR 医療法人 共和会

小倉リハビリテーション病院／介護老人保健施設 伸寿苑／共和会地域リハビリテーションセンター

TEL.093-581-0668 (代表) FAX.093-581-3319 (共通)

〒803-0861福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1 <http://www.kyouwakai.net> 共和会 検索

公式SNSで情報配信中!



Careline

KYOUWAKAI Press  
「ケアライン」2021 夏号 / 介護報酬改定を踏まえて…これからの介護老人保健施設のあり様

○発行  
医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 連携広報部長 井上 崇

# Careline

KYOUWAKAI Press ケアライン

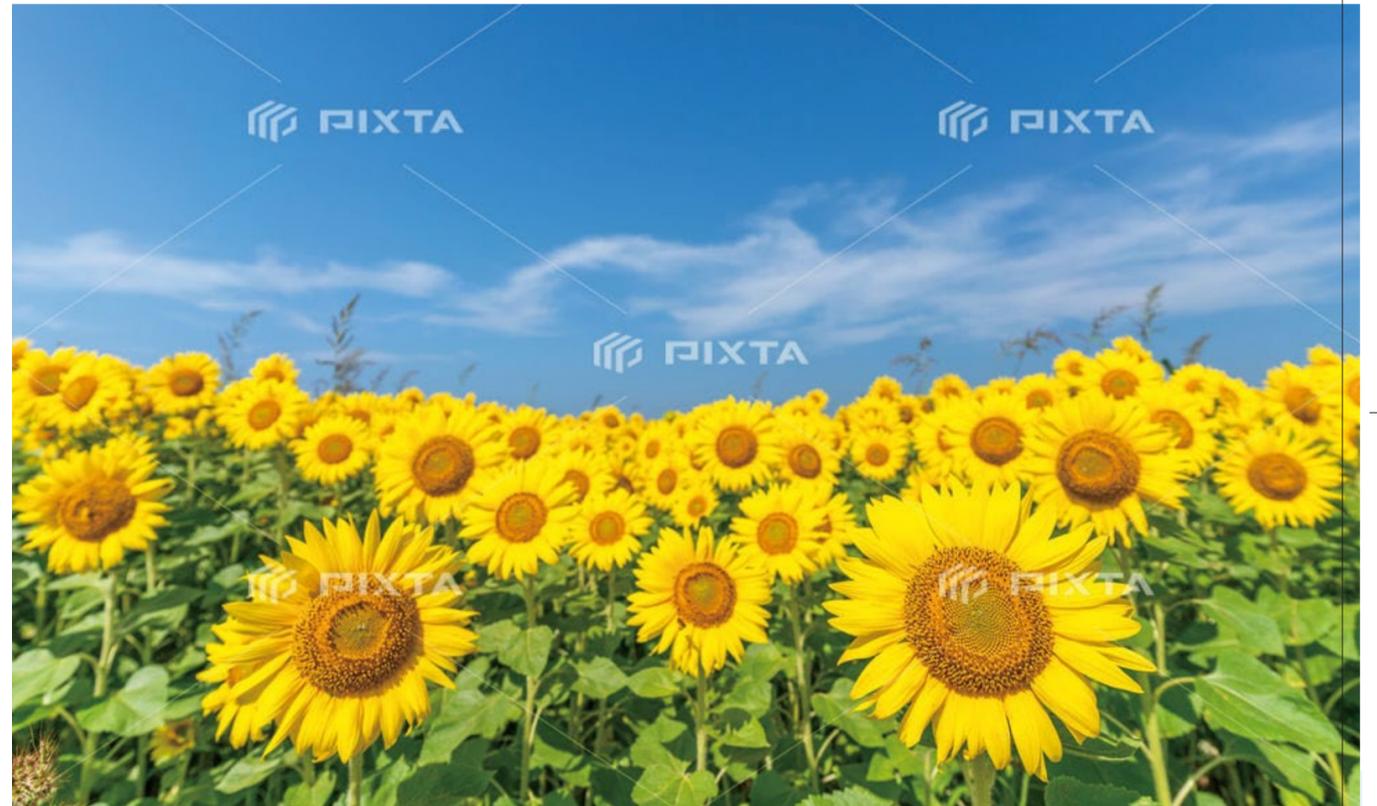
2021

夏号

特集 ～介護報酬改定を踏まえて…

これからの介護老人保健施設のあり様～

REPORT コロナウイルスワクチン接種



北九州市花「ひまわり」

### 地域リハビリテーション医療に貢献…

梅雨明けが待たれる今日この頃ですが、いかがお過ごしでしょうか。日頃より私ども法人活動にご理解と御協力を賜り厚く御礼を申し上げます。まずは5月当院新型コロナウイルス感染症の集団発生により、関係者の皆様にはご心配やご迷惑をお掛けしましたことを心よりお詫び申し上げます。6月3日をもって、管内保健所指導による病棟管理が終了しましたが、当該病棟入院の患者様にはリハビリテーションの目標を達成すべく全職員をあげて取り組んでおります。また地域の皆様には信頼回復に向け更なる感染予防に努め、地域リハビリテーション医療に貢献して参りたいと存じます。さて、法人内ではワクチン接種が行われました。5月末日には介護老人保健施設伸寿苑の入所者・利用者が、6月中旬には病院内職員の接種が完了したところです。感染終息の切り札として期待するところですが、北九州市は緊急事態宣言が解除されたとはいえ未だ各所で感染が発生しています。予防に対する十分な対応を油断することなく取り組んで行かねばなりません。そうした中、今回のケアライン夏号は4月の介護報酬改定を踏まえ介護老人保健施設の活動について考えてみました。ご一読いただければ幸いです。

令和3年7月 医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院 連携広報部長 井上 崇



リハ室での歩行練習(PTによる歩容確認)

# ～介護報酬改定を踏まえて… これからの介護老人保健施設のあり様～

令和3年度の介護報酬改定では、介護老人保健施設(以下、老健)などの施設サービスにおいても、質の評価やデータ活用を行い、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービス提供が推進されています。既に医療分野では1990年代以降、「エビデンスに基づく医療」が実施されていますが、介護分野においても、今後科学的手法に基づく分析を進め、エビデンスを蓄積し活用していくことが必要とされてきます。また、高齢者の尊厳を保持し、リハビリテーションを主軸として自立支援や廃用、寝たきりの防止を図り、そして在宅復帰や在宅生活を支援するに当たり、そのプロセスとアウトカムも重視されてきます。単にサービスを提供するだけでなく質が問われる時代へとなってきました。

今回は、令和3年度の介護報酬改定を踏まえた上で、伸寿苑での取り組みを交えながらこれからの老健としてのあり様についてお示します。

## LIFE(ライフ)の活用で「介護サービスの質の評価」と「科学的介護の取組」を推進

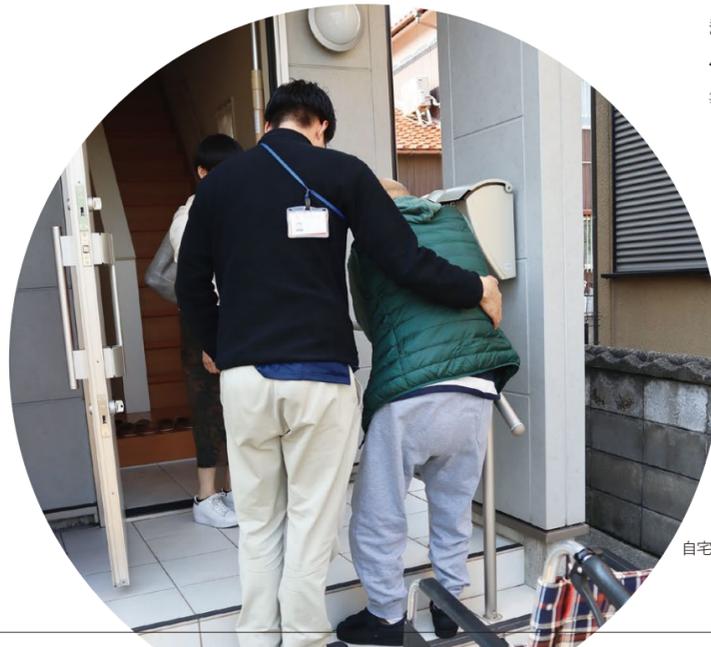
厚生労働省は、平成28年度より通所・訪問リハビリテーション事業所から、リハビリテーション計画書等のデータ収集システム(通称“VISIT”)を、令和2年度より高齢者の状態やケアの内容等のデータ収集システム(通称“CHASE”)を運用しております。そして、令和3年度からはこれらの一体的な運用を開始するとともに、科学的介護の理解と浸透を図る観点から、名称が「科学的介護情報システム(Long-term care Information system For Evidence):LIFEライフ」となりました。

今後は、科学的に効果が裏付けられた介護を推進するために「LIFE」を用いて厚生労働省へADLや栄養、口腔・嚥下、認知症等のデータを提出し、利用者単位又は事業所・施設単位で解析された結果のフィードバックを受けることができます。このフィードバック情報を活用することでPDCAサイクルを推進し、ケアの質の向上につなげていきます。そして利用者等の状態やケアの実績の変化等を踏まえたケア計画等の見直し、改善を行うことにより、自立支援に向け多職種協働にてより一層のサービスの質の向上につなげることが可能となります。

## リハビリテーションを主軸に在宅復帰を目指し、在宅生活を支える

老健は、生活期リハビリテーションの中核であり、リハビリテーションを主軸にして「在宅復帰施設」、「在宅療養支援施設」としての役割があります。今回の報酬改定では、リハビリテーション専門職の3職種(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)配置及び居宅サービス(短期入所療養介護、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション)の充実が評価されました。特に居宅サービスにおいては訪問リハビリテーションの実施がより高く評価されています。これは、老健には充実したリハビリテーションを実施し、在宅復帰だけでなく在宅復帰した後も安心して安全に生活できるような支援が求められているのだと思います。

伸寿苑はリハビリテーション専門職を3職種配置しており、365日リハビリテーションを運営しています。入所から3か月間は短期集中的にリハビリテーションを行い、可能な限り住み慣れた地域でのその人らしい生活の再獲得を目指して支援を行っています。また、コロナ禍においても感染予防対策を十分に行いながら、退所前の家族への介護方法等の助言や、実際に自宅へ訪問し自宅での過ごし方や環境整備等の助言、提案等を行い在宅復帰支援及び在宅復帰後の生活支援を行っています。



自宅訪問での動作確認

## リスクマネジメントに強い組織

昨年は新型コロナウイルス感染症への対応に終始した1年でしたが、今年度も引き続き感染症予防対策は十分なまでに行っていかなければなりません。高齢者施設の場合、クラスター感染は職員による持ち込みも想定されますので、とにかく職員が「かからない」「持ち込まない」ためには一般市民より一段階高い感染予防対策が必要とされます。

伸寿苑では、クラスター発生防止に向け、施設内の定時の換気や共用部分のアルコール消毒等の環境整備のほかに、職員の日々の健康チェックや体調不良時の健康報告(家族含め)、地域の感染情報の共有、さらに療養者の入所前のPCR検査や毎月の行政のPCR検査等様々な対策を講じています。

また、災害の少ない北九州ですが、南小倉地区には小倉東断層があり、また、紫川氾濫による浸水想定区域に指定されており、地震や浸水被害が想定されます。たとえ災害が起こっても継続的にサービスが提供できるよう業務継続計画を策定し、日頃より災害対策準備を、地域住民と一緒に進めていくことが必要となります。

一方で、伸寿苑は「福祉避難所」としての役割を担っています。避難所生活が困難な高齢者や障害のある人などへの支援等、災害時の地域拠点の一つとして貢献できればと思います。

その他にも、高齢者の転倒など事故防止や尊厳を守る取り組み、ハラスメント対策等々に対し、委員会の立ち上げや職員への研修など施設全体で取り組んでいきます。



入所前のPCR検査を自宅にて実施



福祉避難所(災害時の地域拠点)

## 最後に

現在、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて地域包括ケアシステムの整備が進められています。これからも老健は生活期リハビリテーションの中核として、また地域貢献活動を通して地域住民とともに地域での暮らしを支える「地域に根ざした施設」としての役割が求められるものと思います。

執筆:矢野浩二(やのこうじ)

介護老人保健施設 伸寿苑 リハ副部長(作業療法士)